

# ベントン・マッカイの地域思想の成立過程とその展開

奥田 孝次

正会員, 建築修, パートナー, Associated Architects & Planners (〒410-0044 静岡県沼津市五月町 18-23)

本稿では1920年代に活躍したベントン・マッカイがアメリカの地域計画に及ぼした影響や功績を紹介する。マッカイは自然保護主義者、森林学者、地域計画者として幅広く活躍し、ルイス・マンフォードらと共にアメリカ地域計画協会(RPAA)を設立した。マッカイとマンフォード、クレアレンス・スタインらとの書簡等を中心として、マッカイが地域計画に打ち出した彼の地域思想の本質を明らかにすると共に、RPAAに貢献したマッカイの業績や背景を解析する。結論として、マッカイの地域思想は今日の地球規模的なサステナビリティの源流とも捉えられる。21世紀が始まろうとしている今日こそ、マッカイの地域思想がより求められていることは明白であろう。

**Key Words:** MacKaye, Mumford, Stein, Regional Planning, America

## 1. はじめに

本稿ではアメリカ地域計画史上、1920年代を中心にアメリカ地域計画協会(Regional Planning Association of America, 以下RPAAと略記)の設立に重要な役割を果たしたベントン・マッカイ(Benton MacKaye)(1879-1975)を取り上げる。アメリカ地域計画史を考察する上で、RPAAにおけるマッカイの地域思想や業績は見逃すことのできない重要な事柄である。

アメリカ地域計画の源流であるRPAAの設立者、ルイス・マンフォード(Lewis Mumford)(1895-1990)とクレアレンス・スタイン(Clarence Stein)(1882-1973)は地域計画に貢献したと高く評価され、また彼らに関する研究、出版、実績などは数多く残されている。しかし、彼らと親交を深め協働作業を通じて、彼らに大きな影響を与え、かつ思想的にリーダー的存在であった、地域計画者としてのマッカイについてはまだ十分な検証がなされていない。

アメリカ特有の"Wilderness"(原生自然)<sup>1)</sup>に基づいたマッカイの唱えた固有環境(Indigenous Environment)<sup>2)</sup>の考え方は先見性のある地域思想であり、今日においても我々により重要な示唆を与えるものである。地球規模的に環境問題を考慮する時代を迎えて、1920年代にマッカイの地域思想が如何に成立したか、その過程と展開を考察することは必要不可欠であると思われる。

マッカイはハーバード大学で森林学を学び、その後14年間にわたりアメリカ合衆国農務省森林局と労働省の現場に携わった<sup>3)</sup>。その経験を通じて、1920

年代アメリカ政府の自然保護運動の一貫として、マッカイは自然や動植物の生態系から"Wilderness"という原生自然の固有性(The Indigenous)を重要視し、それを保全育成することにより幅広い地域計画の分野に深く取り組むようになった。

主に、マッカイとマンフォード、スタインらとの数多くの書簡等を中心とする資料調査の中から、最も興味を引くものとして"MacKaye's 75th Birthday Letters"が挙げられる。それらはマッカイが1954年に75歳を迎えた時、彼に最も影響を及ぼしたプランナー、自然主義者、都市計画者等(以下、計画者等と略記)との書簡等であり、またマッカイ自らが彼の人生の系譜として綴ったものでもある<sup>註1)</sup>。

その文献から、マッカイは自然保護主義者としても数多くの業績<sup>4)</sup>を残していることが明白であるが、特に地域計画者として貢献し、かつ注目を浴びたアパラチア自然歩道(Appalachian Trail)、RPAA、Tennessee Valley Authority (TVA)で活躍した時期が人生のなかで最も有意義だったとマッカイ自身が回想していることは興味深い。

そのRPAAの活動を軸とすると、時間的・形成過程において、マッカイを中心とした周辺の計画者等とどのような協働関係があったのか、彼らの思想から新しい思想が成立するに至った経緯を明らかにし、そしてその新しい動きによりマッカイのどのような業績が実現されたかを検証することが目的である。

一方、マッカイがアメリカ地域計画の発展にどのような役割を果たし、どのように貢献したかについて、1920年代を中心とする社会的背景を踏まえ、マッカイの重要な位置づけも考察することを意図する

ものである。

この RPAA の文脈において、マッカイがどう関連したかを分析するものであるが、ここでは従来の思想に対して新たな知見を加えたり、また過去の歴史を修正することを試みるものではない。しかし、従来の総合的な知見に裏付けられることはもちろんであるが、その一部に歴史的な考察を若干加え、その中で最も貢献した計画者等のひとりとしてマッカイの業績を明らかにすることは最も有意義なことと思われる。

ここでは、アメリカ合衆国 New Hampshire, Hanover の Dartmouth College, Rauner Special Library にある "Benton MacKaye Papers" における資料調査に依拠している。尚、重要な用語、専門用語は原語を使用する。また、末尾において未公表の引用・参考文献を注 1)、注 2) とし、すでに公表されている引用・参考文献を 1)、2) として示す。

## 2. マッカイに影響を及ぼした計画者等の概要とその関係

RPAA を通じて、マッカイに影響を与えた計画者等、そして思想的なリーダーであるマンフォード、スタインらとマッカイとの協働関係などを含めてその思想的背景を構造的に分析して行く。

### (1) 地域計画者としてのマッカイを確立させた計画者等

マッカイはアメリカにおけるコミュニティの歴史的原型である、ニューイングランドの典型的なコロンIALタウンに育った。その自然環境からアメリカ特有の "Wilderness" を幼い頃から体験し、そして自然主義者ジョージ・パーキンス・マーシュ (George Perkins Marsh)、自然哲学者ヘンリー・デイビッド・ソロー (Henry David Thoreau) から最も影響を受けた。彼らの自然観が、基本的には自然保護主義者であるマッカイの地域思想の源流にあることがマッカイの晩年の文献からも明らかである<sup>註2)</sup>。

しかし、ここではむしろ地域計画者としてマッカイの地域思想を確立させ、かつ彼に影響を与えた計画者等、スコットランドのパトリック・ゲデス (Patrick Geddes)、カナダのトーマス・アダムス (Thomas Adams)、イギリスのエベネザー・ハワード (Ebenezer Howard) とレイモンド・アンウィン (Raymond Unwin) らを取り上げる。マッカイは、彼らのただタウン・プランニングを復活させるだけで

はなく、自然と都市をうまく融合させ新しく機能させるという点に興味を覚えたことがマンフォードからも伺える<sup>註3)</sup>。

特に、マッカイの計画に直接的に最も影響を及ぼしたアダムスとアンウィンに絞りが込むことが必要であろう。マッカイは農務省森林局時代、カナダ保全諮問委員会でアダムスとよく議論を交わす内に、彼の考えに大いに感銘を受けていった。総合的な枠組みの中で、アダムスの計画が植民地化 (Colonization) と田園都市を結び合わせていることにマッカイは興味を抱き、それが 1920 年代におけるマッカイの地域計画への掛け渡しとなった<sup>註4)</sup>。

一方、1913 年ハワードにより田園都市論 (Garden Cities) が提唱された。RPAA はハワードが設立した田園都市協会の国際支部ということもあって、マッカイはその田園都市国際会議でアンウィンらとも出会う機会が多くあり、個人的にも交流をさらに深めていった<sup>註5)</sup>。あくまでも RPAA は田園都市の計画概論を範としてハワードを捉えていたが、田園都市計画や自然と都市の機能に対する、アンウィンの新しい "コミュニティ論" の考えは RPAA のメンバー達にも賛同を与えた。その中でも、専門的な意見交換を通じて、マッカイの "Geotechnics"<sup>註6)</sup> に影響を与えたことは事実である<sup>註6)</sup>。

### (2) アメリカ地域計画協会 (RPAA) におけるパートナー

1923 年、多種多様の専門家達が集まってアメリカ地域計画協会 (RPAA) が設立された。その RPAA における各々の役割として、その思想的リーダーを果したのが活動的なマンフォード、会長として RPAA 全体のリーダーを務めたのがスタインであった。一方、副会長のマッカイはマンフォードと共に、地域計画の基本理念を活動的に押し進めた<sup>註7)</sup>。

また、マンフォードは文明批評家として社会学的な地域計画、スタインは建築家として "Community Planning" (コミュニティ・プランニング) の基盤を各々に確立した。それに対し、マッカイは地域計画者以外にも産業経済学者、哲学者、エッセイストとしても多岐の分野にわたる活動を展開した。

さらに、マッカイは森林学から自然の生態系を通して森林学者、かつ自然保護主義者という立場を維持し、自然保護関連にも幅広く活躍した。1920 年代当時、マッカイは "Geotechnics" という地球規模で考える "新しい科学" を地域計画の実践に結びつけた数少ない地域計画者であることが彼らとは大きく異なる点であろう<sup>註8)</sup>。

マッカイより 16 歳年下のマンフォードは都市計画者やエンジニアでもなく、文明批評家として幅広い分野に対する数多くの業績があり、むしろ“ゼネラリスト”(Generalist)とも呼ばれていた<sup>9)</sup>。しかし、マッカイはあくまでも思想的なパートナーとしてマンフォードの考えに賛同し大いに影響を受けたが、計画者のスタインと比べてマンフォードは単に批評家であって実践的な作業にはあまり関与せず、マッカイとの関係は晩年それほど発展しなかったことが書簡から分かる<sup>10)</sup>。

一方、スタインとの関係において、マンフォードからの思想的な影響とは異なり、マッカイはむしろスタインと計画者同士としての立場を維持した。晩年になっても、マッカイはスタインと共に原生自然地域の保全計画、レクリエーション計画などに関連した地域計画を一層推奨して行った。

晩年、スタインはマッカイと多くの書簡交換を通じて彼の考え方や業績に共感しそれらの書簡全てを保管している。それは私にとってマッカイの歴史そのものであると書簡の中でマッカイに誇らしげに語っている。このことからマッカイとスタインの深い親交が伺えるであろう<sup>11)</sup>。

### 3. 計画者等との協働によるマッカイの地域思想の成立とその思想的背景

RPAА での協働から、マンフォード、スタインらの思想と比較し、かつ彼らから如何に影響を受け、マッカイの地域思想が確立されたかを明らかにする。その固有性を論じる上で、都市に対するマッカイとマンフォードの考え、そしてコミュニティに関してアダムスとアンウィンからの影響を受けた Community Planning の二つに分けて解析して行く。

#### (1) マッカイの都市に対する固有性とマンフォードの文明論

都市に対する考えにおいて、RPAА ではマッカイは思想的にマンフォードと共感し、お互いに思想的リーダーの立場を取っていた。1920 年代の社会的背景として、自動車の急速な普及によって、人々の生活圏が飛躍的に拡大し、一方では道路・公園などの広域的施設の整備が急がれ、他方では住宅地と就業地の郊外分散への可能性が認識され始めた。

特に、マンフォードは自動車が都市を占領することに対する厳しい批評家としても知られていたが、マッカイは自然から離脱して成長する都市集中化の

解決策として、逆に電力や自動車の新しいテクノロジーを駆使することも必要不可欠であることを予見していた。しかし、マッカイは都市の諸問題やスプロール化により、現実には自動車が自然を広範囲に破壊し都市を複雑化することを警告し続けていた<sup>6)</sup>。

そのなか、マッカイは“4th Migration”(4 番目の移住)<sup>7)</sup> という全く新しい郊外人口の“人の流れ”、すなわち都心部から農村郊外への“Backflow”(逆流)という移動に注目した。都市に対するその人口移動の流れを抑制することで自動車を抑制することができるとマッカイは明言している<sup>8)</sup>。その後、その提案として具体的には今日的なバイパスの原型、“Townless Highway”がラドバーンで実現された。

また、マッカイの“Geotechnics”という固有性に関しては、マンフォードの影響なくしては語ることが出来ないであろう。マンフォードは生物学者・都市計画者ゲディスの門弟として、現に都市とその地域に自ら住むことにより、ゲディスから生物・社会的な独特の文明論を学んだ。生物学の原理を社会現象にあてはめ、都市を関連づけるそのゲディスの考えは、マンフォードを通して“Geotechnics”という形でマッカイの地域思想に大いに影響を与えたとマンフォード自身が語っている<sup>12)</sup>。

19 世紀末から 20 世紀初頭、アメリカにおける大きな技術革新の重要性が指摘されると、新しい産業における物質的要素の基盤は国家的でも大陸的でもなく、まさに地球的である。その新技術期経済が存続するためには、その産業と政策を地球的規模で編成するよりほかに道がないとマッカイは 1920 年代に発見していた。まさに、それはマッカイの思想、“Geotechnics”そのものであることは明白である<sup>9)</sup>。

一方、文明論の観点から都市に関して言えば、マンフォードは文明史家オズワルド・シュペンゲラー(Oswald Spengler)の“西洋の没落”(The Decline of The West)<sup>10)</sup>に共感し、またその“都市の発展と衰退サイクル”において、都市が“メガロポリス”を超えて“ネクロポリス”(死者の都市)へと衰退して行くことをマンフォードは懸念していた<sup>11)</sup>。

それに対し、マッカイは地域計画者の観点からアメリカの文明の没落を否定し、むしろ社会と環境のバランスや人口抑制という“都市の固有性”により、都市が再生されるとマンフォードに反論した。すなわち、文化と環境のバランスの要素としての“固有文化”が我々の社会を形成させてきた、その“固有文化”、つまり都市、農村、原生自然—“固有環境”を保全することにより、むしろ都市の崩壊や侵入を防ぐことができるとマッカイは強く確信していた<sup>12)</sup>。

その地域における自然保護や自然資源という観点

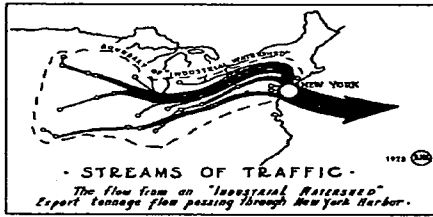


図-1 "Visualization"による流れのシステム

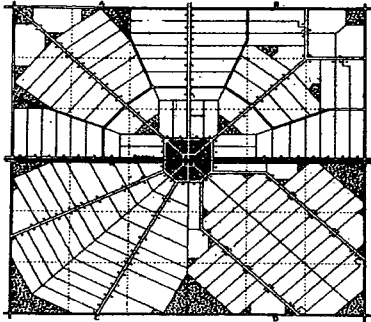


図-2 アダムスのタウン・プランニング

から産業のシステムを水域のシステムと同一視すると、そこには自然資源の"Source"(源)から人口の"Mouth"(物流における最終点)へという流れがあることをマッカーイは"Visualization"という独自の新しい手法、つまり図式化することによって見出した。

その手法の一例として、地域計画の観点からニューヨークのタイムスクエアの交通マヒを解消させるために、大西洋側から輸出される小麦の物流ルート、いわゆる"流れ"を変える必要があることをマッカーイは発見した<sup>13)</sup>(図-1)。このように、マッカーイがその"固有性のある"流れのシステムを地域計画に取り組んだことは明らかである<sup>13)</sup>。

## (2) アダムス、アンウィンから Community Planning への展開

まず、ここでは地域計画者としてのマッカーイを確立させ、かつ地域計画への掛け渡しとなった、アダムスのタウン・プランニングを取り上げる必要がある。それは都市、町、農村コミュニティ、特にタウンシップのレイアウトであり、そのコミュニティの中心から放射状に道路や森林が配置され、また住民が有効に土地を活用するために農園も区画されていることである<sup>14)</sup>(図-2)。

マッカーイは概念的にはハーワードの田園都市の影響を受けていたが、アダムスのその計画を参考にし修正を加えることにより、その森林地域を農村コミュニティとする新たなコミュニティ計画を推進した。

まさに、それは後の"Regional City"の理念に影響を与えたとマッカーイはマンフォードへの書簡の中で述べている<sup>14)</sup>。

次に、アンウィンの新しいコミュニティ論の中で、地球は快適な生活や利便性のある仕事の場所であり、また地域は生活をつくりあげると同時に生活を営む場所として描写されている。それはコミュニティの活動やレクリエーションにおいて、より文化的な活動や生活のアメニティを考慮した、しかもコミュニティの生活を基盤とした活動がより反映される、"都市計画"であるべきだという新しい考えであった。マッカーイはアンウィンの考えに大いに賛同し、それがラドバーンへの業績に繋がって行ったことを顕著に述べている<sup>15)</sup>。

RPAА では、スタインは建築家として田園都市を計画してきたが、スタイン自身も認識しているように、地域計画を推進するための社会的、文化的な面に対する"固有性のある"解決方法を"Visualization"する能力が欠けていたことである。それに対し、マッカーイはまさにその"Visualization"の手法を駆使することにより、森林学と土地利用のバックグラウンドをもってスタインに影響を与え RPAА に大いに貢献した。マッカーイの農務省時代に実証した"自然保護主義"と、1920年代にスタインが推奨していた"Community Planning"との掛け橋的な役割を果たしたことは最も興味深いと言えるだろう<sup>15)</sup>。

## 4. マッカーイの地域思想の展開とその実績

RPAА での活動期間中、スタインらと共にマッカーイが携わった数多くの業績の中から、ここでは特に、地域広域計画としてのニューヨーク州プラン(以下、NY州プランと略記)、コミュニティ計画としてのラドバーン(Radburn)、そして地域開発計画としてのTennessee Valley Authority (TVA)の3つの代表的事例を解析して行く。

従来思想や他の計画者等から影響を受け、マッカーイの地域思想が具体的にどうインパクトを与え、各々の業績が実現されたかを考察する必要がある。それらの実績において、マッカーイの地域思想が最も反映され、また"Regional Planning"という用語自体が確立されたのもこの時期である。

### (1) NY州プランにおける Regional City 構想

1923年から1926年まで、スタインはニューヨーク州住宅・地域計画委員会の初代委員長に就任し、



ことでもある。それにより地域思想の本質としての"Geotechnics"が"Visualization"される<sup>註20)</sup>。その"Planning"の定義において、"Geotechnics"が初めて応用されたのが NY 州プランであり、そこにはマッカイの地域思想が強く反映され、その本質は"Visualization"であるとマッカイは小論文の中でその成果を纏めている<sup>註21)</sup>。

## (2) ラドバーンにおける"Townless Highway"の実現

アンウィンが手掛けたイギリスのレッチワース、ハムステッド、アズウィックなどの田園都市の影響を受けて、アメリカでもガーデンズ・コミュニティ構想として、サニーサイド・ガーデンズでの住宅建設が実現された。その完成をみた上で 1928 年、スタインとライトは"Town for the Motor Age" (自動車時代のまち)をラドバーンに計画し、本格的な田園都市建設を着手することになった<sup>18)</sup>。

ラドバーンはあくまでも都市と農村との利点を兼ね供えるという理想的な田園都市の理念に基づいたニュータウン(New Town)であるが、本来の田園都市とは異なった郊外型手法を含んでいる<sup>19)</sup>。その田園都市が決して郊外型の提案ではなかった要因として、イギリスではアメリカよりも自動車の普及が遅れていた。そのためハワードは自動車から人を守るための安全、また平穏な生活を確保するための街路レイアウトを想定していなかった<sup>註22)</sup>。

そこで、スタインらがラドバーンで歩行者の安全性を第一に考え、二つの革新的な新しい手法を初めて試みた。すなわち、"ラドバーン方式" (Radburn Principle)と呼ばれる人車分離 (歩行者と自動車との完全分離)、そして田園都市の街路レイアウトとしてのスーパーブロックであった。20 世紀初頭の激増する自動車とレジャー時代をハワードは残念ながら予知できなかった。しかし、アンウィンはスタインらのその手法に感銘を受け、大いに支持した。だから、その"自動車時代のまち"を建設することが RPAA の理念でもあるとスタイン自身確信するようになったことが分かる<sup>註23)</sup>。

現実には、"自動車時代のまち"としてのラドバーンはマンハッタンからの"人口の流れ"を抑制するためのコミュニティとして、また人との触れ合いのあるアメニティという共同体としても建設された。バランスのとれた文明社会におけるその人間的な触れ合いは未開墾地環境(原生自然)—人と自然、コミュニケーション環境(田舎・農村)—人と人、都市環境—社会的に人と人とであり、コミュニティにとっては根源的

に必要である。それらがラドバーンには包含されているとマッカイは当時のフーバー大統領への意見書の中で提言している<sup>註24)</sup>。

結果的に、ラドバーンの構想において、マッカイは"郊外型のまち"として自動車の抑制を促すことが可能な"Townless Highway"を推進することに対してマンフォードらから大いに理解を得た。それが実現されると、その成果に対して彼らから絶大なる賛同を受けた。その"Townless Highway"によって、マンフォードが警告している緊迫した都会の崩壊、いわゆる"メトロポリタン文明"という"侵入"を阻止できることをマッカイはマンフォードに実証した<sup>註25)</sup>。さらに、それは当時の自動車の激増に対する戦略として、都会からの人口の"Backflow"を抑制し、そして田舎・農村の環境に悪影響を与える"Highway Slums" (幹線道路沿いのスラム化)を解決する策でもあるとマッカイは述べている<sup>註26)</sup>。

その"Townless Highway"には、マッカイが提唱した3つのプロトタイプが挙げられる。まず、オフロード・コミュニティ開発としての道路では幹線道路からアクセスできるが、オープンスペースなどの公園により隔離されている(図-6a)。次に、サービス道路と並列な道路では街並みをつくるセカンド道路と並列に走っている(図-6b)。最後に、公園のある道路ではレクリエーションとしてのオープンスペース、休憩エリアやピクニックエリアなどが設けられている<sup>20)</sup>(図-6c)。

最終的には、1929 年の大恐慌の影響によりラドバーンの開発は縮小され、目指していた安全性のある田園都市の完全な New Town とはならなかった。しかし、現にマッカイのこのプロトタイプの"Townless Highway"は今日の高速度道路網を発展させる要因にもなり、現代的なアメリカ社会にも必要とされる新しいコミュニティの形態を試みたことは最も意義深いものがある。そして、その意義は今日でも求められるとスタインはマッカイの功績を小論文の中で高く評価している<sup>註27)</sup>。

## (3) TVA 計画における地域性から広域性への展開

1933 年、ルーズベルトがホワイトハウスで政権を執ると、アメリカ政府は再び明確に環境保護の政策を前面に打ち出した。世界大恐慌後、ニューディール政策(New Deal)の核として大規模な自然保護計画が提案され、ルーズベルトの環境保護という名のもとに地域計画は"保全"という形で TVA 計画が進められた<sup>註28)</sup>。

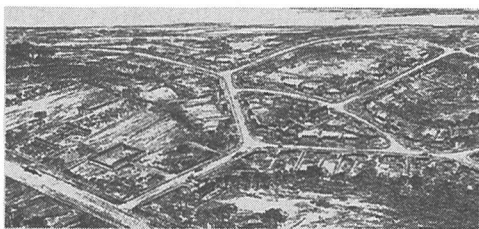


図-6a オフロード・コミュニティ開発の Townless Highway



図-6b サービス道路と並列の Townless Highway

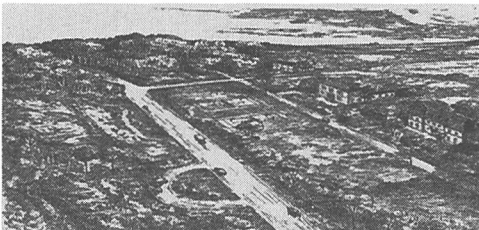


図-6c 公園のある Townless Highway

ルーズベルトは NY 州プランに対するマッカイの地域計画の考えに最も共感を抱き、マッカイに TVA 計画の主要な政策に参画する機会を与えた。特に、地域計画の展望と概念を推進するために TVA の土地利用・住宅部門の地域計画者主任としてマッカイが起用された。しかし、彼の考えは TVA という官僚的、支配的気風のなかでは哲学的で一風変わっていたが、現実にはマッカイは画期的な経済開発や人々の生活面における諸問題などを提起した<sup>21)</sup>。

TVA 関係当局は曖昧な形で経済開発を対処しようとしたが、むしろ"メトロポリタンのスプロール化"を促す劣悪な要因になりかねないと、地域計画の観点からレクリエーション開発としての基準を設定すべきだとマッカイは TVA 関係者に強く提言した。このように地域計画、地域開発、都市計画に対するマッカイの数多くの業績はルーズベルト政権下の TVA の時期に最も達成され、ニューディール政策に大いに影響を与えたことは明らかである<sup>29)</sup>。

大恐慌後のアメリカにおける画期的な地域開発事業として、TVA 計画が果たして成功したとは言い切れないが、そのニューディール政策では発電、森林再生、土壌改良、洪水コントロール、農業改善、レクリエーション施設の整備などの広範囲な事業が展開

された。しかし、そのなかマッカイは州単位での地域的スケールよりも広域的スケールへの"National Planning"の必要性を強く訴えた<sup>30)</sup>。

マッカイのこの働きが、RPAA が目指していた地域計画から国家的な広域計画への種蒔きとなったことは事実であるとスタインはマッカイの先見性を賞賛している<sup>31)</sup>。その広域的スケールへの展開として、住宅ではなくコミュニティを建設し、公園としての原生自然を保全し、郊外の森林を再保全すべきだとマッカイはルーズベルト大統領へ書簡の中で提案している<sup>32)</sup>。

まず、マッカイは地域における公共開発の可能性を見出し、また河川流域の流れを抑制するために、貯水システムや水力発電の水域保全にとって河川流域での森林保全が必要であることを説いている<sup>33)</sup>。次に、広義的に"地域"というスケールでの地域開発には基本的に3つの"固有性"がある。いわゆる物理的、経済的、社会的条件、そして4番目の条件として"Control"がある。その物理的条件は自然保護と保全、経済的条件は物流である原料とエネルギー、そして社会的条件は"Townless Highway"を含む"Federal City"、あるいは"Regional City"であるとマッカイは TVA 意見書の中で言明している<sup>34)</sup>。

それに加えて、TVA 計画では土壌改良や森林再生により原生自然の環境を保全し、さらに水力開発だけでなく人々に雇用の機会を与え、地域の人々への地場産業の活性化を推進し、それ以上にその流域を開発することでもある。それと同時に都会の人々にレクリエーションの場を提供することにより、"固有な文化"を活性化し、その固有性に対する"Habitability"、いわゆる"Regional Planning"の理念を基本的に計画すべきだとマッカイは TVA 関係者に強調した<sup>35)</sup>。

具体的に、その固有性に関してマッカイは TVA 全域を概念的に(I)渓谷領域、(II)固有性のある地域領域、(III)原生自然領域との3領域に分け、それらを総合的に地域開発するという地域計画の概念スケッチを描いた<sup>36)</sup>(図-7)。さらに、その自然資源開発に対するシステムに関して、河川調整池、ダム、貯水池としての"水域"の流れ(口印)、同様に水力発電としての"電力"の流れ(米印)、斜面部における森林植栽としての"土壌や植栽"の流れ(斜線地域と示す)という"固有性のある流れ"を"Visualization"により発見し、全体的にそれらを考慮する必要性をマッカイは説いている<sup>37)</sup>(図-8)。

その後、TVA での功績により RPAA の後継として、アメリカ地域開発財団(Regional Development Council of America、以下、RDCA と略記)を組織し、1950年に



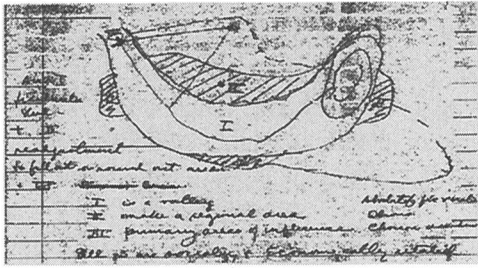


図-7 マッカイの地域計画概念スケッチ

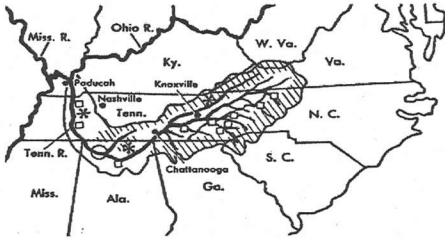


図-8 TVA 計画における自然資源開発

スタインが会長、マッカイが副会長となった。地域計画の枠組みにおいて、RDCA に対する活動はより国家的、いわゆる州から連邦へ、そして地域から広域的スケールへの転換でもあったとマッカイはスタインにその成果を語っている<sup>注38)</sup>。

現実には、RDCA の活動はそれほど活発なものではなかったが、晩年マッカイは RDCA の展望と理念として、国家的な広域的スケールに対する "Habitability"、さらにより大きく "地球" という環境を保全するシステムを "Visualization" できる可能性を掲げ、また "地域" に基づいた自然資源に対処するアメリカ政府の再認識を促すことを政府機関への報告書に提言している。その点、今日的な "Habitability" の分野におけるアメリカ政府の方針に対してマッカイが大いに貢献したことは事実であろう<sup>注39)</sup>。

## 5. まとめ

地域計画者としてのマッカイの地域思想を通して、アメリカ地域計画を吟味考察してきた。以下に明らかとなった要点を記することで結語としたい。

まず、RPAA ではマンフォード、スタインらによってマッカイの地域思想の核心が十二分に確立された。ここに、マッカイに対する役割や貢献は大きいと言えるだろう。

次に、以上の分析に対し、時間的成立過程という文脈の中で、マッカイを中心とした周辺の計画者等との協働関係、彼らの影響によるマッカイの思想の

成立、そして実現されたマッカイの業績を図に纏め、マッカイの位置づけに対する説明を加えたい(図9)。

マッカイに影響を及ぼした周辺の計画者等には自然保護主義を主張する者が多くいたが、マッカイはただ自然保護主義だけを説いたのではなく、また自然への回帰というノスタルジアだけでなく、現状を肯定しながらそれらの諸問題を直視したことが伺える。

その中でも、特にマッカイは20世紀初頭、社会問題化されてきた "車社会" がアメリカのライフスタイルと環境を脅かすことを警告し続けた。その点、マンフォードと文明論では異なった考えを持っていたが、その対策としてロードバーンでは自動車を抑制するためにマッカイが提唱した "Townless Highway" の基本理念が実現されたことは意味深い。

このように、本来の地域計画の方向性を打ち出したことに対してマンフォードからも賛同を受けた。マッカイのその先見性は大きい注目すべきであろう。

しかも、その先見性を探求する上で、1920年代にマッカイが "Visualization" という独自の新しい手法を生み出した。その手法を駆使して、まず "メトロポリタンの侵入" の要因が "人の流れ" と "物の流れ" という "固有性の流れ" のあらゆる可能性を解析したこと、次に RPAA の地域計画の基本理念を確立させたことを評価したい。

さらに、TVA における国家的業績として、マッカイの地域思想が "保全" と "地域計画" の二つの運動という形により打ち出され、地球規模で考えるという "新しい技術" は "Geotechnics" の幕開けであった。それはマッカイにとって "Visualization" と "Geotechnics" を組み合わせる初めての大きな試みでもあり、そして今日的な地域資源を開発し、地域性から広域性への大きな展開であったことは興味深い。

最後に、本稿の考察では1920年代を中心とするマッカイの地域思想、かつその成立過程と展開の側面を重視するテーマとした。しかし、21世紀における新しいアーバンデザイン理念との繋がり、すなわち今日の環境保護運動の系譜に対する Sustainability の本質とマッカイの固有環境との関係を明らかにし、マッカイの地域思想とその位置づけを理解するなど、なお考察の余地を残す。その解析は、今後さらに展開し得る可能性を備えたものであると考えられる。

この点について、マッカイの固有の地域思想への探求は将来への計画の示唆、例えば具体的に今日の日本への有意義な示唆なども含めて改めて検討する機会をもちたい。

本稿では、以上で一応の研究結果としたい。



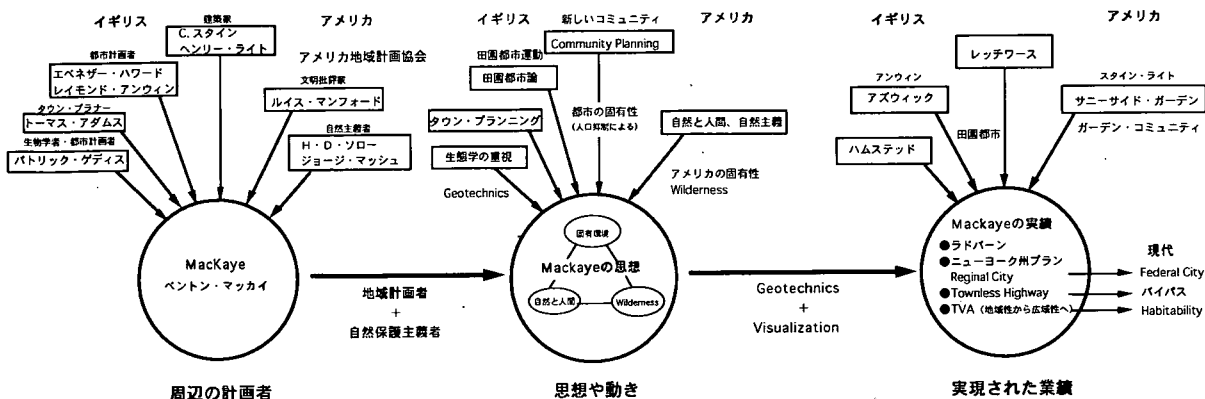


図-9 マッカイの地域思想の形成と位置づけ

謝辞：本論文をまとめるのに際し、立命館大学工学部環境システム学科教授・京都大学名誉教授、川崎清博士には研究テーマの方向づけ、構成に至るまで終始熱心なご指導を頂きましたことに対し厚く御礼申し上げます。また、工学院大学名誉教授・波多江健郎先生にはマッカイに関する貴重な翻訳資料提供と有益なご助言を頂きました。ここに心から感

謝申し上げます。さらに、貴重なご意見及びコメントを頂きました立命館大学工学部土木工学科教授・小林紘士博士に対し深く謝意を表します。

尚、下記に未公表の引用・参考文献を注1)、注2)とし、並びに公表の引用・参考文献を1)、2)として示す。

図出典

- 図1) MacKaye, B.: The New Exploration - A Philosophy of Regional Planning, The University of Illinois Press, p. 7.
- 図2) MacKaye, B.: Employment and Natural Resources, Department of Labor, p. 118.
- 図3) MacKaye, B.: A New Regional Plan to Arrest Megalopolis, Architectural Record, March-1965, p. 150.
- 図4) MacKaye, B.: Essential Physical Differences - Old and New Patterns, New Pencil Points, p. 53.
- 図5) Stein, C.: The Regional City-Problems Connected with Use of Open Green Areas for Agriculture, Forestry etc., ML 5, Box 214, File 46, p. 5.
- 図6) MacKaye, B.: Townless Highways, The American City, May-1930, p. 95.
- 図7) MacKaye, B.: Regional Planning in the T. V. A., ML 5, Box 214, File 66, p. 1.
- 図8) MacKaye, B.: From Geography to Geotechnics, The University of Illinois Press, p. 133.
- 図9) 著者作成

注

以下の引用資料はRauner Special Library, Dartmouth College, Hanover, New Hampshire, U. S. A. に所蔵の”Benton MacKaye Papers”に関する未公表の文献、あるいは資料であることを示す。

- 注1) MacKaye, B.: A Letter to Mumford, Stein and Other Friends on MacKaye's 75th Birthday, ML 5, Box 172, File 12, pp. 1-18, March 6, 1954.
- 注2) MacKaye, B.: Shirley Center - A Planned Town A Present Day "Moot-Hill", ML 5, Box 188, File 89, p.1, 1962.
- 注3) Mumford, L.: Statement of Mr. Lewis Mumford before the Senate Subcommittee on Executive Reorganization, ML 5, Box 214, File 12, p.2, April 21, 1967.
- 注4) MacKaye, B.: Geotechnics - An Earth Science in the Making, ML 5, Box 187, File 43, pp. 10-11, September 17, 1946.
- 注5) Ibid., p. 11.

- 注6) MacKaye, B.: A Memorandum on Regional Engineering Series: A Proposal Series on the Subject of Regional Planning or Engineering, ML 5, Box 167, File 5, p. 1, July 21, 1930.
- 注7) Mumford, L.: Statement of Mr. Lewis Mumford before the Senate Subcommittee on Executive Reorganization, ML 5, Box 214, File 14, p. 2, April 21, 1967.
- 注8) Hand, I.: Clarence Stein - Fiftieth Anniversary Award by American Institute Planners, ML 5, Box 174, File 17, p. 1, October 12, 1967.
- 注9) Mumford, L.: Statement of Mr. Lewis Mumford before the Senate Subcommittee on Executive Reorganization, ML 5, Box 214, File 12, p. 1, April 21, 1967.
- 注10) Mumford, L.: A Letter to Benton MacKaye, ML 5, Box 166, File 13, p. 1, December 18, 1926.
- 注11) Stein, C.: A Letter to Benton MacKaye, ML 5, Box 174, File 17, p. 1, October 12, 1967.
- 注12) Mumford, L.: Statement of Mr. Lewis Mumford before the Senate Subcommittee on Executive Reorganization, ML 5, Box 214, File 12, p. 2, April 12, 1967.
- 注13) MacKaye, B.: A World Atlas of Commodity Flow, ML 5, Box 166, File 12, p. 1, January 18, 1926.
- 注14) MacKaye, B.: A Letter to Lewis Mumford, ML 5, Box 167, File 3, p. 1, September 19, 1930.
- 注15) MacKaye, B.: A Memorandum on Regional Planning Engineering, ML 5, Box 182, File 8, p. 1, July 21, 1930.
- 注16) Stein, C.: A Letter to Benton MacKaye with a Memorandum to Franklin Roosevelt, ML 5, Box 167, File 10, p. 1, March 25, 1931.
- 注17) MacKaye, B.: The Strategy of Regional Planning, ML 5, Box 188, File 97, pp. 8-9, March 7, 1968.
- 注18) Stein, C.: A Letter to Benton MacKaye with Agriculture in A Regional City, ML 5, Box 171, File 20, pp. 1-2, June 8, 1953.
- 注19) Stein, C.: Address on Clarence Stein at The First State Conference on Regional and City Planning, ML 5, Box 214, File 47, pp. 1-7, June 9, 1924.
- 注20) MacKaye, B.: Regional Planning, ML 5, Box 187, File 12, p. 10, September 17, 1946.
- 注21) MacKaye, B.: What is a Region in Planning?, ML 5, Box 186, File 18, pp. 1-3, p. 7, October 8, 1954.

- 注22) Stein, C.: A Radburn Idea, ML 5, Box 173, File 17, pp. 1-2, March 17, 1960.
- 注23) Ibid., p. 2.
- 注24) MacKaye, B.: The Flow of Iron Civilization - President Hoover's Biggest Engineering Problem, ML 5, Box 166, File 29, p. 8, July 21, 1930.
- 注25) MacKaye, B.: A Letter to Lewis Mumford, ML 5, Box 166, File 27, p. 1, October 23, 1929.
- 注26) MacKaye, B.: The Strategy of Regional Planning, ML 5, Box 188, p. 12, File 97, March 7, 1968.
- 注27) Stein, C.: A Radburn Idea, ML 5, Box 173, File 17, p. 1, March 17, 1960.
- 注28) MacKaye, B.: An A-B-C of Regional Planning Three Approaches to An Urban Science, ML 5, Box 185, File 5, pp. 2-5, January 24, 1938.
- 注29) MacKaye, B.: The Straits of Manhattan, ML 5, Box 166, File 29, pp. 1-7, August 5, 1929.
- 注30) MacKaye, B.: A Memorandum to Clarence Stein, ML 5, Box 187, File 112, pp. 1-8, November 29, 1951.
- 注31) Stein, C.: A Letter to Benton MacKaye, ML 5, Box 167, File 10, p. 1, March 25, 1931.
- 注32) Stein, C.: A Letter to President Franklin D. Roosevelt, ML 5, Box 217, File 15, pp. 1-6, February 3, 1933.
- 注33) MacKaye, B.: A Letter to Clarence Stein, ML 5, Box 172, File 12, p. 1, September 24, 1932.
- 注34) MacKaye, B.: An Open Letter to the T. V. A. Committee, ML 5, Box 168, File 20, p. 3, July 13, 1938.
- 注35) MacKaye, B.: A Memorandum to Clarence Stain - To Discover the Elements of Habitability in Terms of Elemental Services, ML 5, Box 1-20, File 9, p. 1, January 8, 1952.
- 注36) MacKaye, B.: Regional Planning in the T. V. A., ML 5, Box 214, File 66, p. 1, September 26, 1934.
- 注37) MacKaye, B.: A Memorandum to Clarence Stein, ML 5, Box 188, File 10, p. 5, February 18, 1952.
- 注38) MacKaye, B.: A Memorandum to Clarence Stein, ML 5, Box 187, File 112, pp. 1-20, November 29, 1951.
- 注39) MacKaye, B.: A Memorandum to Clarence Stain - To Discover the Elements of Habitability in Terms of Elemental Services, ML 5, Box 188, File 9, pp. 1-20, January 8, 1952.
- 参考文献
- 1) Nash, R.: Wilderness and the American Mind, Yale University Press, pp. 153-155, 1982.
- 2) マッケイ, ベントン - マンフォード, ルイス序文, 波多江健郎訳: ジオテクニクス-地域計画の哲学, 彰国社, pp. 175-187, 1971.
- 3) 奥田孝次, 川崎清: アメリカ合衆国におけるベントン・マッケイの地域思想の分析に関する研究—地域計画の業績とその思想, 建築学会計画論文集, 第 545 号, pp. 223-230, 2001 年 7 月号.
- 4) 同上, p. 229.
- 5) 同上, p. 228.
- 6) MacKaye, B. and Mumford, L.: Townless Highways for the Motorists: A Proposal for the Motor Age, Harper's Monthly Magazine, pp. 347-356, August, 1931.
- 7) Mumford, L.: The Forth Migration, Survey 54, pp. 130-133, May 1, 1925.
- 8) Hughes, T. and Hughes A.: Lewis Mumford - Public Intellectual, Oxford University Press, p. 84, 1990.
- 9) Mumford, L.: Technics and Civilization, Brace and Co., pp. 255-259, 1934.
- 10) Spengler, O.: The Decline of The West, Alfred A. Knoff, Inc., pp. 251-252, Originally Published 1928, Republished 1962.
- 11) Mumford, L.: The Golden Day, Boni and Liveright, Inc., pp. 147-154, 1926.
- 12) MacKaye, B.: End of Peak Civilization, Survey, pp. 441-444, September 15, 1932.
- 13) MacKaye, B.: The New Exploration - A Philosophy of Regional Planning with An Introduction by Lewis Mumford, Harcourt, Brace and Company Inc., p. viii, Originally Published 1928, Republished 1962.
- 14) Lubove, R.: Community Planning in the 1920's - The Contribution of the RPAA, University of Pittsburgh Press, p. 114, 1963.
- 15) Hughes, T. and Hughes A.: Lewis Mumford - Public Intellectual/Lewis Mumford, Benton MacKaye, and the Regional Vision, Oxford University Press, p. 72, 1990.
- 16) Mumford, L.: A New Regional Plan to Arrest Megalopolis, Architectural Record, pp. 147-154, March, 1965.
- 17) Stein, C.: Essential Physical Differences-Old & New Patterns, New Pencil Points, p. 53, June, 1942.
- 18) Relph, E.: The Modern Urban Landscape, Johns Hopkins University Press, pp. 56-57, 1987.
- 19) Smith, G.: A Town for the Motor Age, Survey, pp. 695 - 698, March 1, 1928.
- 20) MacKaye, B.: Townless Highways, The American City, pp. 95-96, May, 1930.
- 21) Schaffer, D.: Benton MacKaye - The TVA Years, Planning Perspectives 5, pp. 12-14, 1990.

(2001. 5. 31 受付)

## A DEVELOPMENT ON THE REGIONAL PHILOSOPHY OF BENTON MACKAYE

Takazi OKUDA

This paper provides an introduction of the impact and implications of Benton MacKaye in 1920's, appeared as a conservationist, a forester, and a regional planner, who eventually founded Regional Planning Association of America (RPAA) along with Lewis Mumford. Focusing on MacKaye's letters and/or archives with Lewis Mumford and Clarence Stein, it establishes the context out of which MacKaye grew the idea for Regional Planning. This study also conducts an analysis of the achievements and scenario associated with RPAA, examining their concept. It is concluded that the vision of Benton MacKaye can be the origin of today's sustainability. Therefore, it would be needed even more today, as 21st century begins.